

時間割コード	G1B30010	開講年度	2026					
授業題目	地域未来論				担当教員	林 靖人		
英文授業名	Learning for Regional Vitalization					山田 崇・大島 正幸		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生	全	
講義室	共通教育 4 7 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	全学横断特別教育プログラム 全コース認定科目
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】		
	大学DP							
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				⇔	地域・社会の現状についての確に情報収集・理解を行い、自らが主体的に問題に対して行動することができるようになる		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働、健康長寿、防災減災、キャリア							
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース、グローバルコア人材養成コース ・ B A S I C (日本理解)							
(4)授業の概要	本授業では、実際に地域・社会で起きているリアル・プロブレム（現実問題）に注目し、新たな地域社会の未来構築に向けて、価値創造や問題解決に取り組む実践者（担当教員、自治体の職員、起業家、他大学の研究者など）様々な人々に話題を提供いただきます。授業を通じて、社会変革に必要な視点、知識、能力を養い、自らが「シカケ・シクミ・システム」を構築する人材へと成長することを狙います。皆さんは各回のテーマに関して自主的に学習を行い、基礎知識を踏まえた上で、講師の話の聞き、問題の確認、原因の分析、解決に必要な視点、必要な要素や方策を考える訓練をします。次世代学問に求められる「アクション・リサーチ」（理論と実践の循環による研究手法）の基礎を身につけていただきます。 なお、本授業は、①担当教員（起業経験/企業実務経験あり）②外部講師（実務者）により実施されます。また、③男女共同参画に関する内容を含みます。							
(5)授業のキーワード	地域志向、地域活性化、地方創生、文部科学省、COC、ENGINE、SPARC、ShinXia、全学横断特別教育プログラム、LIDコース、ローカル・イノベーター養成コース、SDコース、ストラテジーデザイン人材養成コース、アントレプレナー育成、起業、ベンチャー、スタートアップ創出、実務経験、グループワーク、レポートのフィードバック							
(6)授業計画	担当教員と外部からゲスト講師や企業を招き、リレー式で多様な視点を学びます。 第01回（4月14日）：ガイダンス 第02回（4月21日）：地域の未来を考える1（担当教員1） 第03回（4月28日）：地域の未来を考える2（担当教員2） 第04回（5月12日）：スポーツから考える ※松本山雅 第05回（5月19日）：地域の特産から考える ※松本クラフトフェア 第06回（5月26日）：関係人口から考える 第07回（6月02日）：観光から考える 第08回（6月09日）：中間ふりかえり 第09回（6月16日）：地域の未来を考える3（担当教員3） 第10回（6月23日）：メディアから考える ※WHERE 第11回（6月30日）：地域資源から考える 第12回（7月07日）：企業による地域創新事例1 ※JR東日本長野支社 第13回（7月14日）：企業による地域創新事例2 ※アルピコグループ 第14回（7月21日）：企業による地域創新事例3 ※hide kasugaグループ 第15回（7月28日）：全体ふりかえり （備考） ・※の企業は、昨年度実績を参考として記載しています。 今年度の企業は調整中のため初回にご案内いたします。 ・授業の進行状況や外部講師都合により日時・内容・順序を変更することがあります。							
(7)成績評価の方法	全15回のうち、10回分の授業を対象として、以下の〔1〕から〔3〕の総合点を基に判定を行う。 配点内訳については、以下のとおり。 〔1〕授業の「きづき」の記載 [10回×5点＝50点満点] 〔2〕「きづき」のピアレビュー [10回×5点＝50点満点] 〔3〕授業内で案内するイベント参加等の加点（2回まで×5点＝最大10点） ○成績評価の得点上限は100点とします（最大は110点） ○連絡/事情なく欠席した場合は1回ごとに5点マイナスをします。 なお、〔1〕の各評価は、以下の観点から評価する。 ・表現：適切な日本語、文章表現による説明ができているか：3点 ・知識：講義内容で得た知識が活用されているか：4点 ・探究：先行事例や研究等を適切参照・引用し、知識を深化することができるか：2点 ・独創：自身の考え・新しい見解を提案し、教員を感心させることができる 1点							
(8)成績評価の基準	総合的な評価点は次のように位置づけられる ■90点以上:秀(基準から卓越している) ■80点以上:優(基準よりも、かなり上にある) ■70点以上:良(基準よりも、やや上にある)							

(8)成績評価の基準	■60点以上:可(基準を満たしている) ■59点以下:不可(基準を満たさない)
(9)事前事後学習の内容	・本授業は2単位科目であり、学修要件として90時間が必要とされています。そのため授業時間に加えて、理解を深めるために授業時間外で60時間以上の学びが必要となりますので、積極的に様々な知識を身に付けるよう努力をしてください。 ・事前・事後学習時の資料づくりについて：予習・復習のレポートをまとめる際に、自身の考えだけでなく、それを補強・裏付けするための各種データや画像等の引用を行うことが求められる。引用時には出典を明らかにし、自身の考えと引用部分が明確に分かるようにすること。 ・授業参加への態度について：演習形式、グループワークなどを取り入れるため授業参加への態度を評価に加える。積極的なコミットメント（率先して発表するなど）は加点とするが、非協力的な態度等についてはマイナスすることもある。 ・授業時間とは別に地域を知るためのイベントやセミナーなどを設定する予定である。授業外の課外活動的な位置づけではあるが、授業内容と深く連動しており、その後の学びにも大きな影響を与えるため、積極的に参加を期待する（※加点対象）。
(10)履修上の注意	・本授業は、信州大学が設置する選抜型の副専攻コース「全学横断特別教育プログラム（X-FACT）」の認定科目に設定されています。受講希望者が多い際には、同コースへの参加希望者を優先することがあります。 ・本授業では、「主体的に考え、地域・社会を創造する志向」を養うことを目指します。そのため、授業を受講するにあたって必要な基礎知識を事前に学習することを前提とします。受講者は新聞・書籍・論文・インターネット（AI活用含む）など各種メディアを使って関連する知識を収集し、整理をすることを求めます。情報の利用にあたっては出典等を確認し、妥当なものを用いることに注意してください。 ・本授業では写真やビデオ等による記録を行い、広報資料等に活用をいたします。またメディア等による取材等が入ることもあります。受講者の方は本事項をご承諾いただくようお願いいたします。 ・本授業では情報検索やプレゼンテーション等を行うため、パソコンを利用します。インターネット接続が可能なもの（ネットワーク接続は授業を行う場所の環境を利用）、表計算やプレゼンテーション資料が作成可能な環境（例：Word, Excel, PowerPoint等）の準備をお願いします。
(11)質問、相談への対応	・授業に関する質問や相談は、原則、授業中あるいは終了後にのみ受けます。 ・授業に関する連絡はeALPS、メール、SNS（LINE, GoogleChat等）でいたします。 ・対面での相談は事前にご連絡ください メール：yhayashi@shinshu-u.ac.jpへ連絡をお願いします。 研究室：共通教育第1講義棟南校舎4F研究室（0263-37-2967） ※ただし、担当教員は、外出や打合せが多いため6,7限の時間帯になります ・EメールやLINE等の送付の際は、氏名・学籍番号を必ず記載してください
(12)授業への出席	◎原則、履修する全ての回に出席すること。 ◎連絡/事情なく欠席した場合は1回ごとに5点マイナスをします。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	・本授業は、講義＋グループワーク等で構成され、ゲスト講師等と実施するためアーカイブ等は講義部分のみ提供となります。 ・やむを得ない欠席（感染症による出席停止や忌引き等）については、都度ご相談ください。
【教科書】	指定しません。専用のプレゼンテーション及び資料の配布を行います。
【参考書】	指定しません。授業内で紹介や自身でテーマに関連するものを取得してください。